

4月 入園，入学おめでとう。

入園された皆さん，改めましてご入園おめでとうございます。

例年であれば「入園のつどい」の頃はさくらが咲き誇っている時期ですが，今年は咲き始めてから早々に満開を迎え，この時にはだいぶ散り始めていました。この冬は日本列島全体で記録的な寒さが続き，結果，さくらにとっては「休眠打破」といわれる現象が進んで開花が早まったと，気象予報士が解説していました。寒ければ遅くなると思いがちですがそうでもないようです。

今年度はもも組からもみじ組まで，合わせて22人の子どもたちが入園されました。当園の掲げる「丈夫なからだと豊かなこころ」という保育目標に向かって，保護者の皆さんとともに子どもたちの育ちを見守っていきたくと思っています。

毎年4月の今頃は，新たに入園した乳児クラスの子どもの泣き声があちこちから聞こえ，この時期ならではの雰囲気がありますが，今年は思いのほか静かなように感じます。一方，在園の子どもたちは，それぞれ進級したことで多少なりとも成長の跡が伺え，先月とはわずかな時間の差にもかかわらず，これまでとは違ったお兄さんお姉さんに見えるところが不思議です。進級が人をつくるということでしょうか，一緒にお昼を食べているふじ組の子どもたちを見ても前のクラスの時より落ち着きが見え，男の子同士の会話も「おっちゃん」みたいでなかなか堂に入っています。聞いていて思わず笑ってしまいます。

4月9日に小学校の入学式があり光徳校に行ってきました。卒園児の子どもたちを含め44人の1年生は，厳粛な空気の中でいささか緊張気味でしたが，1時間足らずの式の間ちゃんと話が聞け，校長先生からほめてもらっていました。

その日の午後には，恒例になっている真新しいランドセルを背負った新1年生の諸君がやってきて，お披露目をしてくれました。上記の進級の子どものたち同様，器が人をつくるのかにわか仕立てながら小学生然としていて，もはや昨日まで保育園にいた子どもたちではないとの思いを強くしました。この日は寒さが厳しかったことなどもあって一部にとどまりましたが，その後数日かけてみんな来てくれました。

入学式からほぼ一週間がたち，玄関から児童館の階段を上がっていく彼らの振舞いもだんだん様になってきています。最初のうちは保育園の方にも目が向いていても，やがて児童館の子になり自立していくのでしようが，それでもこれからも気軽に事務所に立ち寄ったり後輩たちのクラスをのぞいてくれる子どもたちであってほしいと願っています。

園長 新喜 富雄